

【経済学部】令和6年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

①カリキュラムマップ

パフォーマンスについて点検・確認した

②シラバス

パフォーマンスについて点検・確認した

③その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

パフォーマンスについて点検・確認した

課題

科目ナンバリング表において、特定分野に科目数の偏りが見られた。分野設定を見直す必要がある。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

DP達成度の学生の主観的評価を把握するため、授業形態（講義／演習・実習）ごとにDP達成度の主観的評価を集計し分析した。

課題

実習系科目は「実務上役に立った」等の自由記述は多いものの、DPとの関連は相対的に低く、設問との関連付けが課題である。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

授業科目の到達目標については、60%以上到達できたと回答した割合は春 91%、秋 92%となっており、履修生は到達目標の過半は達成できたものと評価される。学生の資質・能力の修得状況については、すべての科目においてDP1・2が身に付いているという回答が多かった。授業形態別にみると、講義系科目ではDP1・2が、演習系科目ではDP3・4が身に付いているという結果となった。

課題

実習系科目は「実務上役に立った」等の自由記述は多いものの、DPとの関連は相対的に低く、設問との関連付けが課題である。

アセスメントプランの取り組み

①結果

「演習Ⅳ」の履修者数および単位修得者数を調査・確認した。その結果、履修者数は2023年度が441人、2024年度が469人であり、単位修得者数は2023年度が265人、2024年度が272人であった。

②課題

履修者数および単位修得者数は増加しているが、卒業者数に占める単位修得者数の割合はおよそ50%程度である。ゼミ修了論文に取り組む学生を増やすことが課題である。

※この内容は令和6年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学HPへの掲載を検討します。